

中国の高等教育機関の「研究生院」における定期的な経営管理評価の必要性と可能性：研究生院長への調査結果をふまえて

戚, 蕊
九州大学大学院博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/19626>

出版情報：飛梅論集. 11, pp.1-22, 2011-03-25. Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

中国の高等教育機関の「研究生院」における 定期的な経営管理評価の必要性と可能性

－研究生院長への調査結果をふまえて－

威

蕊*

1. はじめに

(1) 課題設定と先行研究

本研究は、中国の研究生院長へのアンケート調査とインタビュー調査の結果に基づき、研究生院における経営管理の問題点を析出するとともに、研究生院の経営管理を改善するため、定期的な経営管理評価を導入する必要性と可能性を検討する。

まず、本研究の用語を説明する。「**研究生院**」というタームは中国の専用名称である。日本語に全く同じ意味の訳語がないことから、そのまま使用する。また、中国では、「**碩士**」(修士)課程及び博士課程の大学院生を「**研究生**」^{ヤンジュウシヤン}と総称している。本研究における「研究生」はすべて中国の大学院生を意味する。そして、高いレベルの専門人材を養成するために、大学の本科教育(学部に相当する)以上行われる学歴教育¹⁾、高等教育の最高段階は「研究生教育(Postgraduate Education)」と呼ばれる²⁾。1978年から、中国では「研究生教育」を発展させるために、まず科学研究を主目的とする中国社会科学院と中国科学院³⁾に「研究生院」を設置した。1984年に、教育部は「一部の全国重点の高等教育機関で試行的に研究生院を設置することについての幾つかの意見」⁴⁾(1984)において、「研究生院は学長に率いられて、相対的独立的職能を有する研究生の教育と行政の管理機構である。」と研究生院を定義し、北京大学等の22大学で最初の高等教育機関の研究生院を試行的に設置することとした。1995年に、『研究生院設置暫定的規定』⁵⁾に、「一般的に、科学研究機構は研究生院を設置しない」ことが規定され、それ以降研究機構に新たな研究生院を設置すらしなかった。それゆえ、今日中国では科学研究機構の研究生院と高等教育機関の研究生院が並立している。本研究はこのように高等教育機関で設置された研究生院を研究対象とする。

1994年7月に「高等学校与科研院所学位与研究生教育評価所」という組織が設置された。この組織の主な任務は、高等教育機関及び科学研究機関にある学位授与権を有する組織の評価と、研究生教育の質の評価を行うことである。「高等学校与科研院所学位与研究生教育評価所」による評価を通じて、高等教育機関の試行的な研究生院は正式な研究生院に転換した。2010年11月現在、中国では56高等教育機関で正式な研究生院を設置している。これらの研究生院の国家級重点学科⁶⁾

*九州大学大学院博士後期課程

数は全国重点学科数の83.7%、在学する博士課程、修士課程の研究生の割合はそれぞれ全国総数の76%と55%であり⁷⁾、中国の研究生教育に重要な位置を占めている。

先行研究に目を向けると、中国における研究生院に関する専門書は、『中国の普通高等教育機関の研究生院』⁸⁾ (陸叔雲、範文曜編著、1995)、『中国の研究生院の**設置と建設**についての研究』⁹⁾ (陳子辰編著、2001)、『探索と革新—中国の研究生院の**建設と発展**の研究』¹⁰⁾ (中国研究生院**院**長**聯**席会、2007)の三冊である。陸叔雲等(1995)は当時の北京大学研究生院等、33研究生院の概況を紹介した。『中国の研究生院の**設置と建設**についての研究』(陳子辰編著、2001)は国家レベルの研究課題を引き受けた浙江大学研究生院等、研究生院の研究者が組み立てた研究グループの研究生成果である。その中で、一流大学と研究生院の関係、研究生院の職能、アメリカの研究生院の優れた点などについて理論的に検討している。『探索と革新—中国の研究生院の**建設と発展**の研究』(中国研究生院**院**長**聯**席会、2007)は、國務院学位委員会の委託を受け、研究生院院長10人の研究成果である。研究生院の設置の背景、職責及び問題点と今後の方向などを考察した。それらの研究は、研究生院に関する研究の貴重な参考資料である。また、『中国の研究型大学における研究生院制度の分析—組織構造の視点から』¹¹⁾ (楊院、2009)という厦門大学の修士学位論文があり、研究生院の組織構造の問題点と改善策を検討している。

その他、中国においては研究生教育に関する学術雑誌『学位と研究生教育』¹²⁾が発行されており、その中で研究生院について20数篇の論文が執筆されている。「研究生院の建設における若干問題についての研究」¹³⁾ (齊歆、1998)は華中理工大学研究生院の管理実務中で遭遇した問題点を述べた。「研究生院の管理体制とモードの検討」¹⁴⁾ (鄒碧金、楊樹鋒、2001)は研究生院の管理職能を發揮し難い問題を検討し、管理体制とモードの長所と短所を分析した。「我が国高等教育機関の研究生院制度の革新に関するいくつかの認識」¹⁵⁾ (叶紹梁、2001)は研究生院の管理運営は大学の全体運営を有機的に融合しないことを指摘し、研究生院の管理制度の改革を提案した。これらの研究からみると、研究生院の管理業務に問題点があることは余儀がない。しかし、その問題点は具体的に提示されていない。

日本では、中国の研究生院の経営管理についての研究はほとんどない。「中国の大学院教育：新しい歩み、新しい挑戦 (アジアの高等教育)」(マーク・シーデル、1987)、『中国の高等教育改革』(北京大学高等教育科学研究所 大塚豊訳、1995)、『文革後中国における大学院教育』(南部広孝、2002)、『大学院の改革』(江原武一、馬越徹編著、2004)、「中国における大学院教育」(黄福涛、李敏、2009)などの中国の大学院教育に関する研究において、研究生院を大学院教育の一部として言及しているものがある。

中国の専門家、学者が組み立てた中国学位与研究生教育發展報告課題グループが執筆した『中国学位と研究生教育の發展報告 (1978—2003)』(2006)の中に書いているように、「市場経済体制が發展させた後、研究生教育の管理体制と養成の方法をどのようにするかという改革と改善は喫緊な、重要な課題になった」¹⁶⁾。一体、何の問題が研究生院の順調な發展に悪い影響を及ぼすのか、どのようにその問題点を解決すべきかなどの疑問がいまだ残っている。

このような問題意識で、筆者は中国の研究生院における経営管理における問題点を明らかにするため、先行研究から得たアイデアと職務を通して実感した問題点を加え、アンケート調査用紙を作成し、実態調査を行った。『研究生院設置暫定的規定』により、研究生院の院長は学長または副学長が兼任し、副院長は専任である。研究生院長は全面的に研究生院の経営管理業務を把握できる管理者で、一番適切な研究対象ととらえた。そして、アンケート調査の対象は56研究生院の院長または副院長を選定した。

ところで、本研究において研究生院の経営管理とは、人材養成と研究成果を創るために、研究生院の管理方法を運用し、校内の人、資金、施設・設備、情報等を効率的に活用し、教育、研究活動に有利な条件を提供し、研究生院の順調な運営を求めることである。経営管理は、もともとは企業界の概念である。経営と管理とは英文でManagementであるが、日本では、広辞苑によると経営とは「継続的、計画的に事業を遂行すること。とくに会社・商業など経済的活動を運営すること、またそのための組織」、管理とは、「管轄し処理すること。良い状態を保つように処置すること。とりしきること。財産の保存・利用・改良を計ること。事務を経営し、物的設備の維持・管轄をなすこと。」と書かれている。中国でも経営と管理は区別がある概念である。通常、経営とは、企業または経営者の経済的な活動という意味である。経営の目的は組織の全体を見据えて計画し、正常的に運営することである。管理とは計画、組織、協調、コントロールを通じて、合理的に組織の人、財、物、情報を運用し、組織の目的を達成する活動である。しかし、経営と管理は相互の関係もある。つまり、経営は全体としての目標であり、管理は内部の具体的な活動であり、管理は経営を実現する手段、方法と言えよう。教育機関にとって、経営の目的は利潤を得ることではなく、人材の養成することであるから、経営というタームを反対する学者もいる。しかし、近年、国は高等教育機関に多くの自主権を与え、校務運営条件の改善や教職員の待遇を向上させるため、高等教育機関と工業、鉱業などの企業間研究及び開発の契約を結び、一定の収入を獲得することができる。その状況下、研究生院は管理機構として、管理の理念だけでなく、経営の理念を導入しなければならない。そこで、本研究は経営管理というタームを使用する。

(2) 研究生院長への調査の概要

中国の研究生院における経営管理の問題点と経営管理評価への意見を明らかにするために、研究生院長へのアンケート調査とインタビュー調査を行った。調査の概要は如くである。

①アンケート調査：

ア. 対象校：中国の研究生院56箇所を対象した悉皆機関調査

イ. 回答者：各研究生院の院長または副院長

ウ. 調査方法、期間：2009年12月21日にアンケート用紙を郵送し、2010年1月20日までに回収した。調査期間は31日である。

エ. 調査票題目：「研究生院の経営管理と院生の質に関するアンケート」（資料参照）

オ. 調査項目：「Ⅰ. 院長の基本的情報」、「Ⅱ. 研究生院の基本的情報」（11項目）、
 「Ⅲ. 研究生院評価について」（8項目）、「Ⅳ. 院生の質について」（6項目）、
 「Ⅴ. 自由記述」（1項目）、設問数は26題（自由記述を除く）である
 カ. 回答結果：23枚回答用紙を回収した。回収率は33.92%。

②インタビュー調査：

ア. 対象校：上海の6つ大学の研究生院
 （復旦大学、同済大学、上海交通大学、華東理工大学、華東師範大学、第二軍医大学）
 イ. 回答者：研究生院の副院長4名、教務主任6名
 ウ. 調査期間：2010年9月1日から2010年9月27日までの27日間
 エ. 調査内容：研究生院における研究生教育の質保証に関する管理措置について（資料参考）

2. 調査結果から析出された経営管理に関する問題点

院長の基本的情報からみると、23人の研究生院長のうち、3人（13.04%）は院長で、20人（86.96%）は副院長であり、男性は21人（91.30%）、女性は2人（8.70%）、1-3年のキャリアを持つ方は9人（39.13%）、4-6年は9人（39.13%）、7-9年は4人（17.39%）、10年以上は1人（4.35%）である。23人のうち、19人（82.61%）が教授で、院生の指導教官である。その調査結果を分析した後、以下の問題点が析出された。

（1）研究生院の経営管理理念の不明確、研究生院の曖昧な位置づけ

1979年、中共中央、国務院は「高等教育機関の統一指導、分級管理を強めることに関する決定（試行草案）」を可決した後、中国は計画的教育体制を導入した。その草案には、教育部は研究生を募集する高等教育機構のリスト、専門、募集計画を制定する責任を負い、高等教育機関の研究生教育を統一管理することと規定している。その草案の指導下、高等教育機関の指導教官の名簿、学生の募集、就職先、専門の目録などが全部教育部によって制定された。1985年5月27日、「中共中央の教育体制改革に関する決定」¹⁷⁾では「高等教育改革のキーは、政府による高等教育の統制の体制を変えること」、「高等教育機構の自主権限を拡大する」ものとされ、中国の高等教育の改革が開始された。高等教育機関は自主的に修士専攻を設置する権限、指導教官の任命権などの権限を付与された。しかし、長期にわたって政府の指令に従って従事することに慣れた高等教育機関はいまだその自主の意識が十分ではない。

その意識は院長の「研究生院の経営管理の理念があるか」の質問に対する回答から明白である。研究生院長のうち、18人（78.26%）は「経営管理理念がある」と選択し、5人（21.74%）は「ない」と選択した。また、「研究生院の発展と大学の発展の関係」について、「研究生院を優先的に発展さ

せて、大学の発展を推進させる」を選択した院長は10人（43.48%）で、「研究生院と大学の全体と肩を並べて発展させる」を選択した院長は13人（56.52%）である。研究生院と大学の発展における地位と作用が不明確である。また、インタビュー調査の時、ほとんどの院長は研究生院と元の研究生処（部）と全く同じと見なした院長もいた。研究生院の独立的職能に対する認識が曖昧である状況を察し得る。

（2）教育条件と大学院生数の矛盾

アンケート調査の結果を見ると、各研究生院は在学研究生の数、指導教官の数、研究生院の職員の数において大きな差がある。在学の研究生が多い方は2万人以上で、少ない方が4千人程度である。指導教官も387人から、2,414人と大きい差がある。研究生院の職員は11～36人程度、学生募集、養成、学位などの担当による設置した事務室は4～35室である。

研究生院の経営管理の問題点を明らかにするために、院長が自校の研究生院の施設・設備、人、資金などの状況についての満足度を設問した。その回答は5段階評定法を用い、「非常に満足」(5)、「満足」(4)、「分からない」(3)、「不満足」(2)、「非常に不満足」(1) から回答者に選択してもらい、平均値を算出した。平均値の高い順に並んで、表1のようになった。

この表から「学生の学習意欲」(3.00)は院長の満足度の一番低い項目であることがわかる。学生の学習意欲が低ければ、必ず科学研究の成果に影響がある。研究の成果は研究生院評価の重要な指標であるから、院長の一番関心事になる。二番目に低いのは学外からの資金の状況である。これは、近年政府が大学の運営金を自主的に工面することを提唱する政策と関係がある。研究生院と企業の産学連携が強くなっている。新しい資金の獲得方法を開くことが院長の悩みとなっている。三番目に低いのは、学内の施設・設備で、四番目に低いのは、研究生の寮についての満足度である。中国の全日制の大学生、研究生は全寮集中管理システムなので、研究生の募集規模の拡大は寮の需要を増やす。大学の後方支援部門¹⁸⁾は寮でベッドの数を増やすことしかで宿泊の問題を解決できなかった。しかし、2001年12月18日に、当時の国务院副総理李嵐清は高等教育機関の後方支援部門会議において、一寮に学部生が4人、修士学生が2人、博士学生は1人という学生の寮の基準を提示した。研究生院はより多くの学生を求めているものの校内の宿泊条件の厳しさが院長の悩みとなっている。同じように、指導教官と研究生の割合にも不満な院長がいる（34.78%）。中国の研究生の募集を拡大したばかりの1999年、中国の高等教育機関の在学学生は233,513人であり、研究生の指導教官は71,860人であり、指導教官の平均研究生数は3.3人である。2008年に、在学研究生は1,230,945人、研究生の指導教官は205,271人であり、指導教官の平均学生数は6.0人である。人気のある専門の指導教官は10人を超える院生を指導することもあり、指導教官と相談せずに卒業した研究生もある。

上述のように、募集規模の拡大とともに、研究生院は更なる高い経営管理水準が要求され、現状を踏まえた経営管理方策を早急に提示する必要がある。

感 意

表1 研究生院長が各自の研究生院の施設・設備、人、資金などの状況に対する満足度

		非常に 不満足 1	不満足 2	分から ない 3	満足 4	非常に 満足 5	合計	平均値
研究生院の職員の勤務	度数 %	0 0	0 0	0 0	20 86.96	3 13.04	23 100.00	4.13
指導教官の学術レベル	度数 %	0 0	1 4.35	0 0	18 78.26	4 17.39	23 100.00	4.09
研究生院の規則	度数 %	0 0	0 0	1 4.35	19 82.61	3 13.04	23 100.00	4.09
研究生院の社会名誉	度数 %	0 0	0 0	2 8.70	17 73.91	4 17.39	23 100.00	4.09
研究生の奨学金、助学金、ローン	度数 %	0 0	2 8.70	0 0	17 73.91	4 17.39	23 100.00	4.00
研究生の研究成果と学術論文の状況	度数 %	0 0	2 8.70	0 0	18 78.26	3 13.04	23 100.00	3.96
校内からの資金支持の状況	度数 %	0 0	3 13.04	0 0	19 82.61	1 4.35	23 100.00	3.78
図書館の蔵書、情報提供	度数 %	0 0	3 13.04	1 4.35	18 78.26	1 4.35	23 100.00	3.74
研究生の思想政治教育	度数 %	0 0	3 13.04	3 13.04	16 69.57	1 4.35	23 100.00	3.65
研究生の文化、体育活動	度数 %	0 0	3 13.04	4 17.39	15 65.22	1 4.35	23 100.00	3.61
指導教官の授業と指導	度数 %	0 0	4 17.39	1 4.35	18 78.26	0 0	23 100.00	3.61
研究生の研究室、教室、実験室	度数 %	1 4.35	4 17.39	1 4.35	15 65.22	2 8.69	23 100.00	3.57
研究生の分野とカリキュラム	度数 %	0 0	6 26.09	1 4.35	16 69.56	0 0	23 100.00	3.43
研究生の心理健康	度数 %	0 0	6 26.09	3 13.04	13 56.52	1 4.35	23 100.00	3.39
指導教官と研究生の比例	度数 %	0 0	8 34.78	0 0	15 65.22	0 0	23 100.00	3.30
研究生院の職員の待遇	度数 %	0 0	7 30.43	2 8.70	14 60.87	0 0	23 100.00	3.30
研究生の寮	度数 %	0 0	9 39.13	0 0	13 56.52	1 4.35	23 100.00	3.26
パソコン、ネットなどの施設・設備	度数 %	0 0	3 13.04	1 4.35	15 65.22	4 17.39	23 100.00	3.17
校外からの資金状況	度数 %	1 4.35	8 34.78	2 8.70	12 52.17	0 0	23 100.00	3.04
研究生の学習の積極性	度数 %	0 0	12 52.17	0 0	10 43.48	1 4.35	23 100.00	3.00

(3) 研究生院の国際化推進力の不足

研究生院は大学の行政管理の機構として、校内外の関連の部門と協力しなければならない。研究生院長の関連の部門の協力に対する満足度を調べた。その回答は5段階評定法を用い、「非常に満足」(5)、「満足」(4)、「分からない」(3)、「不満足」(2)、「非常に不満足」(1)から回答者に選択してもらい、平均値を算出した。平均値の高さにより、その順位を並べた。表2の通り、自校の学長の協力に対する満足度(4.22)が一番高い。研究生院の発展は校長の支持をもらえることがわかった。研究生院と海外の研究生院の協力に対する満足度(3.04)が一番低く、「不満」と選択した院長は52.17%を占めた。

1998年5月、前主席江沢民が北京大学100周年の記念会場で「世界一流の大学を作る」と提唱して以来、「世界一流の大学」は研究生院を設置した大学の努力目標になった。世界一流の大学を作るために、研究生が世界の最先端の学術動向を探究することと大学の国際的交流と協力が必要となる。研究生院は国際化の面において改善の余地がある。

表2 研究生院長が校内外の関連の部門の協力状況に対する満足度

		非常に 不満足 1	不満足 2	分から ない 3	満足 4	非常に 満足 5	合計	平均値
研究生院と学長の協力	度数 %	0 0	0 0	0 0	18 78.26	5 21.74	23 100.00	4.22
研究生院の各事務室の協力	度数 %	0 0	0 0	0 0	21 91.30	2 8.70	23 100.00	4.09
研究生院と各学院の協力	度数 %	0 0	1 4.35	0 0	19 82.61	3 13.04	23 100.00	4.04
研究生院と学生後方支援部門の協力	度数 %	0 0	2 8.70	0 0	19 82.61	2 8.70	23 100.00	3.91
研究生院と他大学の研究生院の協力	度数 %	0 0	4 17.39	0 0	16 69.57	3 13.04	23 100.00	3.78
研究生院と学部の協力	度数 %	0 0	3 13.04	1 4.35	19 82.61	0 0	23 100.00	3.70
研究生院と校外の産学連携	度数 %	0 0	7 13.04	2 8.70	12 52.17	2 8.70	23 100.00	3.39
研究生院と海外の研究生院の協力	度数 %	0 0	12 52.17	1 4.35	7 30.43	3 13.04	23 100.00	3.04

(4) 「学科建設」の難点

研究生院管理の難点について、8項目(「学科建設」、他部門との協調、学術研究のストレス、院生の管理、突発危機の対応、上級の任務、職員の管理、その他)を調べた。表3のように、各項目の度数と比率を示した。その結果、学科建設という項目が第一位(43.48%)の難点になった。

現在(2010年)まで明確な「学科建設」の定義はまだなかった。「学科建設」というタームは当

初「中共中央の教育体制改革に関する決定」（1985年）において「科学研究能力を強め、高い質の専門の人材を養成するために、同じ専攻の専門家が評議し、優秀性を助成する原則に沿って、高等教育機関において計画的に一部の重点の学科を建設する」と説明されていた。その後陸軍等（2004）は「学科建設」の概念について、以下のように総括した。「学科建設とは、学科の方向、学科チーム、学科基盤をめぐって、ハードウェアの投入とソフトウェアの累積を通じて、学科のレベルを高め、人材育成、科学研究、社会サービスの総合的実力を強める系統的なプロジェクトである」¹⁹⁾。「学科建設」のレベルの高さは大学の科学研究の実力を判断する根拠と言えよう。

研究生院の職責において、『研究生院設置暫定規定』（1995）第八条の4では、「学科建設を強化し、学科建設を計画することに参画し、学科構造を調整、優れさせ、新興の学科、関連の学科と先端技術の発展を促進すること」とされており、研究生院は「学科建設」の使命を担当することが明確にされている。研究生院は研究生の募集、研究資金の管理、指導教官の任命、専門の設置における主導的地位は「学科建設」のレベルに直接的な関係があることから、「学科建設」の難点を克服する必要がある。

表3 研究生院長から考えた管理の難点

研究生院管理の難点	度数	比率 (%)
学科建設	10	43.48
他部門との協調	9	39.13
学術研究のストレス	8	34.78
院生の管理	6	26.09
突発危機の対応	5	21.74
上級の任務	2	8.70
職員の管理	1	4.35
その他	1	4.35

（5）指導教官への監督力の不足

研究生院の職責の中に、研究生教育の質と学位授与の質を審査、評価する責任が明確に規定されている。そして、自校で養成している研究生の質を把握することと教育の質保証措置を構築することが不可欠である。

アンケート調査の結果を見ると、院長は自校の研究生の質に対し、明確に認識していると察し得る。研究生教育に関する研究において、研究生の募集規模を拡大することが研究生の質低下につながるなどの説明がしばしばなされていた。しかし、筆者の調査によると、近年の研究生の質について、規模拡大の状況のなかで、「高くなっている」と選択した院長は17人（73.91%）、「低くなっている」と選択した院長は4人（17.39%）である。従来の認識と実態との間に乖離が見られる。これに対し、「研究生の募集規模の拡大は研究生の質に不利な影響を及ぼすと思いますか」という質問について、

「ある」と「非常にある」と選択した院長は合わせて17人（73.91%）で、「ない」と選択した院長は4人（17.39%）であった。この結果によると、院長の意識では、近年の募集規模の拡大は研究生の質に不利な影響をもたらすものの、研究生の質は高くなると考えているわけである。それゆえ、回答は矛盾すると思われるが、筆者が院長にインタビュー調査を行ったところ毎年1回開催される研究生院長联席会議においても、院長は図1で示すような研究生の質の変化に共感していることが判明したからである。

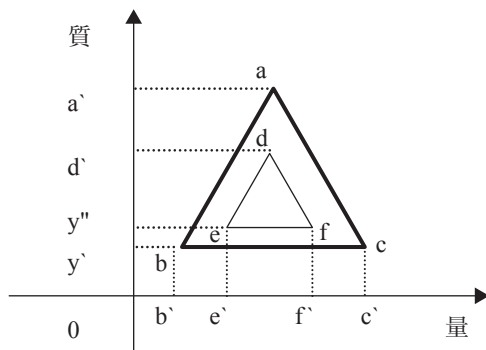


図1 規模拡大の状況における研究生の質と量の変化

募集規模が拡大前の研究生の群は小さい三角形 $d e f$ で表示し、拡大後の研究生の群は大きい三角形 $a b c$ で表示する。横軸は研究生の量、縦軸は研究生の質を表示する。 d' は拡大前の研究生の最高の質、 a' は拡大後の研究生の最高の質、 $a' > d'$; y'' は拡大前の研究生の最低の質、 y' は拡大後の研究生の最低の質 $y' < y''$; $f' - e'$ は拡大前の最低の質の研究生の量、 $c' - b'$ は拡大後の最低の質の研究生の量、 $c' - b' > f' - e'$ 。

研究生の質に影響する要因に対して、第一位の要因は「生源」²⁰⁾ は12人（52.17%）であり、「指導教官の学術レベル」は10人（43.48%）であった。「生源」という要因は理解しやすい。募集規模の拡大とともに、入院試験の合格ラインが相対的に下がり、相対的に質の低い学生が入学できる。そして、それは相対的に質が低い学生を養成する大学に帰結しよう。また、研究生の養成は指導教官責任制であるので、指導教官の学術レベルは研究生の質に大きな影響がある。

23人の院長のうち、自校で養成した研究生の質に満足している院長は19人（82.62%）であり、研究生院は研究生の質に対して、有効な措置をしたと考える院長は100%である。しかし、インタビュー調査の結果、研究生の養成の過程に指導教官の重要な役割を重視するけれども、指導教官の指導責任を問うかどうかについての規定はない。指導教官への監督が不十分の状況にあるとも考えられる。

経営管理の理念、教育資源の配置、国際化、「学科建設」、指導教官の監督はどちらも研究生院の発展に重要な影響を及ぼす。上述のように、アンケート調査の結果から、研究生院の経営管理には、改善すべきな点が具体的に明らかになっている。そして、どのように研究生院の経営管理の水

準を高め、上述の問題を解決するかが喫緊な課題になる。

3. 研究生院の定期的な経営管理の評価の必要性

1966年に、教育家D.L.Stufflebeamが述べたように、評価の目的は証明（prove）ではなく、改善（improve）を図ることである。現在、評価を利用して、高等教育の質の維持・向上を図ることは国際的な通用の方法である。中国でも80年代から、高等教育に評価の方法を導入し、教育の質を保証する。1990年、『普通高等教育機関教育評価暫定規定』²¹⁾が公布され、評価が制度化された。現在まで（2010年）研究生教育に関する評価は学位授与の質に関する評価、研究生院総合的基準の評価、博士、修士の授与資格の合格評価及び優秀性を選出評価、100篇全国優秀な博士学位論文を選出する評価、重点学科の認可評価という形がある²²⁾。しかし、これらの評価は学科または研究成果を重視し、管理の面を軽視した。1996年1月に最初の試行的に成立した研究生院は十数年間を試行して運営した後、評価を通じて、正式的な研究生院に転換した。その頃の評価は研究生院の管理の水準の評価を含んでおり、研究生の募集、養成、学位の授与に関する教育活動の厳しさと規範化を指標として評価した。その後、研究生院の経営管理に関する評価は各研究生院の職員の年度の自己評価のままで、進展していなかった。

前述のように、研究生院の職責は簡単な日常的業務だけでなく、大学の学科の発展方向、研究経費の獲得こと、学科建設などに決定的な作用がある。研究生院の経営管理のレベルは大学の発展に大きな影響がある。研究生院の経営管理に対する評価を行う必要があると考えている。経営管理に対する評価は以下の効用を果たすと考える。

（1）経営管理水準の向上への促進

中国の研究生院を設置した高等教育機関は中国の研究条件が一番優れた高等教育機関といわれている。中国の高等教育機関のなかで国家の重点実験室を有する大学は97校のうち、92校は研究生院を有する大学である。研究生院を有する大学のうちに、55校は“211工程”²³⁾に支援され、36校は“985工程”²⁴⁾に援助されている。今日まで、中国の研究生院の経営管理評価の基準がない。経営管理のレベルは院長の個人能力に依拠する。それは世界一流大学の要求に相違する。世界一流の大学を作るために、相応しい一流の経営管理水準を擁しなければならない。

高いレベルの研究生院の経営管理水準は以下のような特徴を持つと考えられる。まず、明確な経営管理の理念があること。明確な経営管理の理念は組織の努力する方向と目標であり、自校の特徴と社会の実際の需要を基本として形成した理想であり、組織メンバーの共同の価値観を体現する。次に、協調力、規範化、効率が高い管理体制である。すなわち、各部門と協調する能力があり、研究、教育における問題点を迅速的に解決でき、研究、教育に資する条件を提供できる管理体制である。更に、教育の質を保証するための教師への必要な監督力である。指導教官の指導役割の発揮を促す。最後に、学術発展を促進する環境を作ることである。学科の交流、融合は新しい学科を生む土壌になる。

評価の一つの目的は改善を促すことである。定期的な経営管理に対する評価は具体的に以下の作用がある。まず、管理者にとって、組織の現況を全面的に把握することを促し、組織の短期の目標、ビジョン、長期目標を立て、努力の方向性を明確化する。次に、PDCAマネジメントサイクルの原理で、組織の運営の問題点を発見して、組織のスムーズな運営を求める。更に、評価を通じて、組織の導入した管理方法と措置が詳細に記述されているので、今後の参考資料となり、経営管理のスパイラル向上に有効となると考える。

(2) 国家、社会への説明責任

中国の普通高等教育機関の経費の主な出所は、学生の納入金、国家または地方財政からの教育経費、“211工程”、“985工程”などのプロジェクトの資金、高等教育機関が自ら創り出す収入である。2008年、中国の国民生産の総値は300,670億元、教育経費は9,685.56億元、そのうち、高等教育機関の学生一人当たりの教育経費の支出は7,577.771元である²⁵⁾。1999年—2002年の3年間、“985工程”が重点的に支援する北京大学と清華大学は“世界一流の大学を創る”目標を実現するために、政府からそれぞれ18億人民元の資金を獲得し、浙江大学、南京大学、復旦大学、上海交通大学、中国科技大学、西安交通大学、ハルビン工業大学、北京理工大学、北京師範大学が“国内の有名な大学、国際の高いレベルの大学”目標を実現するために、それぞれ中央と地方政府から9億元以上の定額不等の割当金を獲得した。1995年—2005年の間“211工程”が投入した支援金は368億元であった。1993年高等教育に試して学費制度を実施して以来、毎年高等教育機関が学生から取めた学費も少なくない。以上の各種財源から得た収入はどのようにして教育条件を改善するのか、研究生院は国と社会への説明責任がある。

評価のもう一つの目的は社会的な説明責任を果たすことである。経営管理評価を通して、研究生院はどのような目的をもって経営管理を行い、どのような体制を整備し、機能しているのか、どのような措置で教育の質を保証するのか、どのように教育の成果を社会に貢献するのかなどについて、国、学生側、雇用機関および納税者などに対し、公表する必要がある。

(3) 研究生院の個性確立

『研究生院設置暫定規定』（1995）によると、各研究生院は職責と任務によって、簡潔な高効率の原則に沿って、自由に職能の部門を設置する。それは各研究生院の更なる発展にスペースを提供した。アンケート調査の結果が示したように、すべての研究生院には全く同じような組織構造がなかった。各研究生院の地理環境、気候から、教育研究の施設・設備、指導教官の学術レベル、在学の大学院生の数、国、地方政府から得た教育の経費の金額にいたるまで大きな違いがある。盲目的に学科の範囲と学科の学位授与資格を拡張することは必ず教育の人、財、物の浪費を引き起こす。各研究生院は「有所為、有所不為」（あることはするべき、あることはしない）の原則を従って、有限的な人、財、物を集中して、重点的に優勢がある学科に投入して発展させるべきである。

経営管理評価は、組織の目標と目標を達成するために導入すべき措置を明確化できることから、各研究生院が自校の特色を把握し、適当な経営戦略を定めることは個性を發揮することに利するといえよう。

経営管理評価は以上の効用があることから、経営管理の現況と問題点を正確に把握し、研究生院の経営管理の水準向上のため、定期的な研究生院の経営管理に対する評価は不可避といえよう。

4. 経営管理の定期的な評価の可能性

研究生院の経営管理に対する評価を実施する可能性を問うため、アンケート調査において、研究生院長に対し、評価についての態度、観点を調査した。まず、研究生院が試行的な段階から正式に転換する時の評価活動についての意見を調べた。23人のうち、研究生院が試行的な段階から正式に転換する時の評価活動に参加したことがある院長はわずか5人(21.74%)である。16人(69.57%)は当時の評価の方法について「わからない」と選択した。わずか2人(8.70%)は当時の評価方法に賛成した。不賛成の態度を持つ5人(21.74%)は当時の評価を「形骸化」と考えている。

次に、評価に対する認識を調べた。14人(60.87%)は「研究生院の発展を促進する」と選択し、8人(34.78%)は「研究生教育の質を保証する」、10人(43.48%)は「研究生の質を保証する」、5人(21.74%)は「研究生院の特色を発揚する」、11人(47.83%)は「研究生院に対する一定基準の判定」と選択した。定期的な研究生院評価は研究生院の管理水準と院生の質向上に積極的な作用があると思う院長は17人(73.91%)であり、定期的な研究生院の評価に肯定的な態度を持つと理解できる。

更に、研究生院は経営管理について毎年自己点検・評価を行っているのかについて調査した。その結果、研究生院の自己点検・評価は19人(82.61%)が「ある」と選択した。自己点検・評価の必要性について、15人(65.22%)が「重要」、4人(17.39%)が「とても重要」を選択した。

最後に、評価機関に対する意見を調べた。評価を実施する機関に対して、院長の意見は統一ではない。校外の認証評価機関の評価に積極的に参加したいのかの質問について、「非常に参加したい」と選択した院長は1人(4.35%)、「参加したい」は9人(39.13%)、「どちらでもない」は5人(21.74%)、「参加したくない」は6人(26.09%)、「非常に参加したくない」2人(8.70%)である。研究生の雇用機関からの評価の必要性について、「非常に必要」と選択した院長が3人(13.04%)、「必要」と選択した院長が12人(52.17%)であった。雇用機関のフィードバックを重視することが分かった。

上述のように、研究生院長は積極的に研究生院の経営管理を改善する意欲と評価の改善の必要性に対する認識を持っている。研究生院に対する経営管理評価の可能性が考えられる。経営管理評価を行うことは、国の支持、法律の制定などの要件が不可欠である。また、経営管理評価の項目、基準、評価の実施機関などに関する内容は熟慮の余地がある。

5. まとめと今後の研究課題

本研究は、中国の研究生院長への調査結果を踏まえ、以下の諸点を明らかにした。まず、研究生院の経営管理実務の問題点を明確にした。アンケート調査の結果から、今日の研究生院の経営管理

において、管理層の経営管理理念の不明確、教育条件と研究生数の矛盾、研究生院の国際化推進力の不足、「学科建設」の難点、指導教官への監督力の不足などの問題点を析出した。次に、それらの問題点に対し、研究上先駆的に経営管理評価の導入を提唱し、中国の研究生院に経営管理評価を導入する必要性を提示した。最後に、研究生院長の評価に対する態度から、中国の研究生院に経営管理評価を導入する可能性を予測した。

筆者は56校の研究生院にアンケート用紙を配ったが、23校の回答であった。本研究は23校の研究生院長のアンケート調査と上海の6つ研究生院のインタビュー調査に基づいていることから、対象範囲が狭いことは事実であり、研究上の限界でもある。

本研究は試して定期的な経営管理評価の手法で研究生院の経営管理上の問題点を解決しようと思う。今日の中国では、経営管理評価に関する先行研究は皆無の状態であった。日本の国立大学法人評価に示唆を得るところがあると考えている。例えば、中期目標の設定、目標達成度の評価方法、年度評価の仕方などである。国情をふまえつつ、中国の実情に即応できる研究生院の経営管理評価体系を構築する必要がある。経営管理評価体系の要件として、関連法規、評価内容、評価機関とメンバー、評価のスケジュールなどを構想しなければならない。全面的に経営管理評価体系を構築することが今後の研究課題である。

<注>

- (1) 中国では学歴教育とは、受けた教育に合格することを学歴証明書で証明する教育である。中国の学歴は小学学歴、中学学歴、高中学歴、専科学歴、本科学歴、修士学歴、博士学歴という7段階の学歴がある。
- (2) 秦惠民『学位与研究生教育大辞典』北京理工大学出版社、1994年、p.73。
- (3) 中国科学技術大学が中国科学院に所属するから、1977年に中国科学技術大学に設置した「研究生院」は中国科学院の「研究生院」と認められる。謝桂華主編『20世紀的中国高等教育—学位制度与研究生教育卷』高等教育出版社、2003年、p.83。
- (4) 中国語：「関与在部分全国重点高等院校試办研究生院的幾点意見」
- (5) 中国語：『研究生院設置暫行規定』
- (6) 1987年8月12日に、国家教育委員会が「関与評選高等学校重点学科的暫行規定」を配布し、全国的に博士学位を授与する資格を持つ学科から重点学科を選出した。
- (7) 中国研究生院院長聯席会編『探索与创新—中国研究生院建設与発展研究』高等教育出版社 2007年、p.50。
- (8) 中国語：『中国普通高等学校研究生院』
- (9) 中国語：『中国研究生院**設置**与**建設**的研究』
- (10) 中国語：『探索与创新—中国研究生院**建設**与**發展**研究』
- (11) 中国語：『我国研究型大学研究生院制度探析—基于組織結構的視角』

- (12) 中国語：『学位与研究生教育』
- (13) 中国語：「研究生院建設的若干問題研究」
- (14) 中国語：「研究生院管理体制和模式的探討」
- (15) 中国語：「对我国高等学校研究生院制度創新的幾点認識」
- (16) 中国学位与研究生教育發展報告課題組『中国学位与研究生教育發展報告（1978—2003）』高等教育出版社、2006、p.6。
- (17) 中国語：「中共中央關於教育体制改革的決定」
- (18) 中国語では後勤部門という。後勤とは、学生の生活、学習を支援することをしている仕事である。例えば、食堂、寮の管理の仕事。
- (19) 陸軍、宋筱平、陸叔雲「関与学科、学科建設等相關概念的討論」『清華大学教育研究』第25卷第6期、p.12。
- (20) 「研究生の生源」とは、修士課程または博士課程に応募した受験生の出身リソースである。生源は受験生の身分、学歴、民族、地域により区分できる。通常は、ストレート受験生、社会人受験生、同等学歴受験生、少数民族地区の受験生、地元の受験生、他地域の受験生、僻地の受験生などカテゴリーがある。秦惠民『学位与研究生教育大辞典』北京理工大学出版社、1994年、p.348。
- (21) 中国語：『普通高等学校教育評価暫行規定』
- (22) 謝桂華編著『学位与研究生教育研究新進展』北京高等教育出版社、2006、pp.86—98。中国では学問分類が学問分野、「一級学科」と「二級学科」というように、階層的に作られている。基本的に「二級学科」に基づいて設置されている専攻に対して学位を授与する。重点学科は普段は一級学科から選出する。
- (23) 「211工程」は、21世紀に向けて、100前後の高等教育機関（最終的に96校が選定）及び重点専門分野に重点的に投資し、その飛躍的發展を図ろうとする高等教育の国家投資計画である。
- (24) 1998年12月24日、教育部は「21世紀に向けて教育振興の行動計画」を実施するなかで、一部の大学を世界一流大学や一流学科として創建することを重点的に支援すると決定した。それは教育領域における「985工程」と称されている。今日まで、38大学が支援された。
- (25) 教育部「2008年全国教育經費執行狀況統計公報」（最後のアクセス日2010年11月15日）
<http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s3040/201001/78259.html>

<参考資料>

- (1) 中国研究生院院長聯席会編『探索与創新—中国研究生院建設与發展研究』高等教育出版社、2007年。
- (2) 陸叔雲、範文曜編著『中国普通高等学校研究生院』北京理工大学出版社、1995年。
- (3) 陳子辰編著『中国研究生院設置和建設研究』上海交通大学出版社、2001年。

- (4) 謝桂華編著『20世紀的中国高等教育』高等教育出版社、2003年。
- (5) 楊院『我国研究型大学研究生院制度探析—基于組織結構的視角』厦門大学修士學位論文、2009年。
- (6) 徐玲方「把握研究生院制度內涵 加強研究生院制度建設」『学位与研究生教育』、2006年第9期。
- (7) 叶紹梁「对我国高等学校研究生院制度創新的幾点認識」『学位与研究生教育』、2001年第1期。
- (8) 邹碧金、楊樹鋒「研究生院管理体制和模式的探討」『学位与研究生教育』、2001年第4期。
- (9) 王子成、陳文邨「關於高校研究生院的科研管理職能」『高等工程教育研究』1995年第2期。
- (10) 胡甲剛、夏小林「関与高等学校加強研究生院建設的幾点思考」『中国電力教育』2007年第7期。
「研究生院在建設研究型大学中的戰略地位」
- (11) 齊歡「研究生院建設的若干問題研究」『学位与研究生教育』、1998年第3期。
- (12) 中国学位与研究生教育發展報告課題組『中国学位与研究生教育發展報告（1978—2003）』高等教育出版社、2006年。
- (13) 王戰軍、趙瑜、林夢泉「中国普通高等学校研究生院評價指標体系的研究」『学位与研究生教育』、1996年第4期。
- (14) 謝桂華主編『学位与研究生教育研究新進展』北京高等教育出版社、2006年。
- (15) 周洪宇編『学位与研究生教育史』高等教育出版社、2004年。
- (16) 南部広孝『文革後中国における大学院教育』高等教育研究叢書 広島大学高等教育研究開発センター、2002年。
- (17) 江原武一、馬越徹編著『大学院の改革』東信堂、2004年。
- (18) 北京大学高等教育科学研究所（大塚豊訳）『中国の高等教育改革』広島大学 大学教育研究センター、1995年。
- (19) 黄福涛編『1990年代以降の中国高等教育の改革と課題』高等教育研究叢書81、広島大学 大学教育研究センター、2005年3月。
- (20) 黄福涛、李敏「中国における大学院教育」『大学院教育の現状と課題』広島大学高等教育研究開発センター、2009年、pp.81—100。
- (21) 戚蕊「中国における研究生院評価の現状と問題点についての予備的考察」『教育経営学研究紀要』九州大学大学院人間環境学府教育経営研究室、第12号、pp.53—62。
- (22) 戚蕊「中国の研究生院規定に関する全訳」『教育経営学研究紀要』九州大学大学院人間環境学府教育経営研究室、第12号、pp.79—91。

(本研究は平成22年度（2010年）「九州大学学位取得（課程博士）に向けての研究助成」の研究成果の一部である)

資料 1 :

研究生院の経営管理と院生の質に関するアンケート
(日本語版)

調査対象：中国の研究生院の院長、または副院長

回答日付： 年 月 日

以下の設問項目に対して、空欄に書き入れてまたは選択肢の番号に○を付けてください。

I. 院長先生の個人情報について：

所属： 大学研究生院

名前： 連絡先： Email：

年齢： 歳 性別： a. 男性 b. 女性

職務：(複数可) a. 大学校長 b. 大学副校長 c. 研究生院院長 d. 研究生院副院長

研究生院の院長を担任する年数は： a. 0～2年間 b. 3～5年間 c. 5～10年間

d. 10年以上

II. 研究生院の基本状況について：

1. 貴校の試行的な研究生院の設立年月は： 年 月

貴校の正式的な研究生院の設立年月は： 年 月

ほかの都市で研究生院の子機構を設置していますか a. ある (市) b. ない

2. 研究生院の経営管理理念は： a. ある b. ない

aと回答したら、その理念は何ですか。下にご書いてください：

()

3. 研究生院の毎年度の発展目標と計画は： a. ある b. ない

aと回答したら、年末にその発展目標が実現できるか a. ある b. ない

4. 研究生を養成する明確な目標は： a. ある b. ない

aと回答したら、その目標は何ですか。下にご書いてください：

()

5. 現時在籍する全日制博士課程の学生： 人 専門職博士課程の学生： 人

現時在籍する全日制修士課程の学生： 人 専門職修士課程の学生： 人

6. 研究生院の事務室の係員は 人 担当部署は

a. 募集 b. 養成 c. 学位 d. 学科建設 e. 学生管理 f. 専門職学位

g. その他 合わせて () 室

7. 研究生の指導教官は集計で 人 その中に修士の指導教官は 人、

博士指導教官は 人

8. 研究生院の施設・設備、人、資金等に対して、満足していますか

	非常に 不満足	不満足	分から ない	満足	非常に 満足
(1) 研究生の寮	1	2	3	4	5
(2) 研究生の研究室、教室、実験室	1	2	3	4	5
(3) パソコン、ネットなどの施設・設備	1	2	3	4	5
(4) 図書館の蔵書、情報提供	1	2	3	4	5
(5) 研究生院の規則	1	2	3	4	5
(6) 研究生の奨学金、助学金、ローン	1	2	3	4	5
(7) 研究生の思想政治教育	1	2	3	4	5
(8) 研究生の文化、体育活動	1	2	3	4	5
(9) 研究生の心理健康	1	2	3	4	5
(10) 研究生の学習の積極性	1	2	3	4	5
(11) 研究生の研究成果と学術論文の状況	1	2	3	4	5
(12) 指導教官と研究生の比例	1	2	3	4	5
(13) 指導教官の学術レベル	1	2	3	4	5
(14) 指導教官の授業と指導	1	2	3	4	5
(15) 研究生の分野とカリキュラム	1	2	3	4	5
(16) 研究生院の職員の勤務	1	2	3	4	5
(17) 学内からの資金支持状況	1	2	3	4	5
(18) 学外からの資金状況	1	2	3	4	5
(19) 研究生院の職員の待遇	1	2	3	4	5
(20) 研究生院の社会名誉	1	2	3	4	5

9. 研究生院の運営管理において、次の部門との協力について満足していますか

	非常に 不満足	不満足	分から ない	満足	非常に 満足
(1) 研究生院と学長の協力	1	2	3	4	5
(2) 研究生院と学生後方支援部門の協力	1	2	3	4	5
(3) 研究生院と学部の協力	1	2	3	4	5
(4) 研究生院と各学院の協力	1	2	3	4	5
(5) 研究生院の各事務室の協力	1	2	3	4	5
(6) 研究生院と学外の産学連携	1	2	3	4	5
(7) 研究生院と他大学の研究生院の協力	1	2	3	4	5
(8) 研究生院と海外の研究生院の協力	1	2	3	4	5

10. 研究生院の発展と大学の発展の関係について、どう思いますか
- 研究生院を優先に発展させて、大学の発展を推進させる
 - 研究生院と大学の全体と肩を並べて発展させる
 - 大学を発展させた後、研究生院を発展させる
 - 大学の発展と研究生院の発展と関係がない
11. 研究生院管理の難点は何ですか（複数可）
- 部門の間の協調
 - 上級の任務の完成
 - 学術研究のストレス
 - 学科建設
 - 突発危機の対応
 - 職員の管理
 - 院生の管理
 - その他（ ）

Ⅲ. 研究生院評価の状況について：

12. 在職中に貴校の試行的な研究生院が正式な研究生院に転換する時の研究生院評価に参加したことがありますか
- 参加したことがある
 - 参加したことがない
13. 研究生院評価は次の効果があると思いますか（複数可）
- 研究生院に対する一定基準の判定
 - 研究生教育の質を保証する
 - 研究生の質を保証する
 - 研究生院の特色を発揚する
 - 研究生院の発展を促進する
 - 研究生院のランキング
 - 研究生院の競争を推し進める
 - 以上の効果が何もない
14. 試行的な研究生院が正式な研究生院に転換する時に、実施された研究生院評価の方法に対して、満足していますか

非常に不満足	不満足	分からない	満足	非常に満足
1	2	3	4	5

もし、満足しない場合、その理由は：（複数可）

- 形骸化である
 - 特色を反映できない
 - 評価の基準が不明確
 - 評価方法に欠陥がある
 - 透明度が低い
 - 評価の結果は分かりにくい
 - 指導的な意見がない
 - その他（ ）
15. 貴研究生院は定期的な自己点検・評価がありますか a. ある b. ない
- 研究生院の定期的な自己点検・評価はどう思いますか

非常に必要がない	必要がない	分からない	必要がある	非常に必要がある
1	2	3	4	5

16. 専門評価機関から定期的に研究生院の計画と達成状況に対して評価することはどう思いますか

非常に必要がない	必要がない	分からない	必要がある	非常に必要がある
1	2	3	4	5

「必要」と「非常に必要」と選択したら、評価の周期はどのぐらいだと思いますか（ ）年

「必要がない」と「非常に必要がない」と選択したら、その原因は
()

17. 研究生雇用機構から研究生院に対する評価はどう思いますか

非常に必要がない	必要がない	分からない	必要がある	非常に必要がある
1	2	3	4	5

18. 定期の研究生院評価は研究生院の管理レベルと院生の質向上に積極的な作用があると思いますか

ほとんどない	ない	分からない	ある	非常にある
1	2	3	4	5

19. 学外の専門認証機構からの研究生院の特色を認証することがあったら自由に参加すれば、積極的に参加しますか

非常に参加したくない	参加したくない	分からない	参加したい	非常に参加したい
1	2	3	4	5

IV. 貴研究生院の研究生の質について：

20. 近年研究生の質はどんな傾向があると思いますか

非常に低くなっている	低くなっている	分からない	高くなっている	非常に高くなっている
1	2	3	4	5

「低くなっている」と「非常に低くなっている」と回答したら、具体的にどの方面が下がると
思いますか（複数可）

- a. 専門知識 b. 革新能力 c. 道德水準 d. 人間関係 e. 社会知識 f. 社交礼儀
g. その他 ()

21. 研究生の募集規模の拡大は研究生の質に不利な影響を及ぼすと思いますか

ほとんどない	ない	分からない	ある	非常にある
1	2	3	4	5

22. 近年貴校から養成した研究生の質に満足していますか

非常に不満足	不満足	分からない	満足	非常に満足
1	2	3	4	5

23. 研究生の質保証に関する管理の措置を採用しましたか

(例えば、指導教官が研究生の指導職責の監督を強化することなど)

- a. はい、ある b. いいえ、ない

a と回答したら、その措置を書いてください

()

24. 研究生を養成す過程に何か不満足のところがありますか（複数可）

- a. 入学試験 b. 授業 c. 学術研究 d. 卒業答申 e. 学位の申請
f. 就職 g. 何もない

感 蕊

25. 研究生の質に影響する要因に対して、その順位を並べてください

- a. 指導教官の学術レベル
- b. 政府からもらった経費の額
- c. 生源
- d. 入試試験の合格ライン
- e. 養成の制度、カリキュラム設置
- f. 卒業論文についての審査制度
- g. 思想政治教育
- h. その他 ()

その順位は：(1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.)

V. 研究生院の経営管理、評価と研究生の質向上について日頃感じていることがありましたら、以下に自由にお書きください

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました！

資料2：

インタビュー調査の質問用紙（日本語版）

基本情報：

所属： 大学研究生院 性別：

在任**時間**： 年

1. 自校が養成した研究生の質はどう思いますか。研究生の質に影響する要因はどう思いますか。
2. 自校の研究生院の経営管理はどう思いますか。研究生教育の成果に満足しますか。
3. どのような研究生は質が高い研究生とご思いますか。近年の研究生の質に何か不満足なところがありますか。
4. 研究生の質保証に関する管理措置は何ですか。
5. 指導教官に対する監督の措置はありますか。どのように監督しますか。
6. 自校の研究生院は何の特色と優勢がありますか。
7. 研究生院の管理の仕事はどこで改善する必要がありますか。
8. 日常の管理には何か困ることがありますか。

**The Necessity and Probability of Management Evaluation
in Graduate Schools of China's Universities
-Based on Survey Results of Deans of Graduate Schools-**

Rui QI

Since 1978 China began to create graduate schools in order to develop its postgraduate education. Now there are in existence 56 graduate schools within the Chinese university. A graduate school is an institution that administers postgraduate education and administrative work. Usually a graduate school would be led by a university president and it retains relatively independent functions. These 56 graduate schools are playing a very important role in the Chinese postgraduate education. However, the research conducted on the development of those institutions is still in its infancy.

My research is based on a series of surveys conducted by questionnaire and interviewing the deans of those institutions. By analyzing the results it is possible to find out the problems that arise in the management of such graduate schools, for example the ambiguity of the idea of “management” that each of the deans portrays, or the difficulty in constructing academic disciplines, or the problem of internationalizing such institutions.

By analyzing the necessity and probability of carrying out management evaluation in China's graduate schools, it seems that the management evaluation is a good method to solve the current problems in postgraduate schools. There is still a lot of research to be done to analyze how to carry out the management evaluation; part of the problem derives from China's supporting policies, the improvement of laws and the lack of a systematic standard method on how to evaluate such management system. This article constitutes the first step in this research field which will open the door to further research.